

南部中学校総括評価表 (No1) 平成30年度末

		自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見		
1学校運営	①教育目標・教育方針の教職員、生徒、保護者への周知徹底 ②教職員の資質の向上 ③保護者・地域への情報発信	評価指標	評価指標の達成度	Aは80%以上 Bは60%以上 Cは60%未満	総合評定	学校だより、保健だより、給食だよりを定期的に計11回ずつ発行するという積極的な情報発信の姿勢はよい。HPにも掲載し、常に確認できるのもよい方法だと言える。また、連絡メールの活用も即応性があり、必要な手段だと考えられる。	今後も行事やたより発行を通して積極的な情報発信に努める。 本校独自で取り組むメンター制による資質向上研修を継承し、若手教員にも中堅ベテラン教員にも有益な校内研修を継続する。
		①わかりやすいとする保護者 ②資質向上に取り組んでいる教員 ③学校は情報発信していると考える保護者	① ① A ② ② A ③ ③ B				
		活動計画	活動計画の実施状況		(所見)	メンター制を取り入れ、本校独自で発展させている研修を活性化し、校内研修を活性化し、教職員の資質向上に努めた。	
		① PTA 総会や学校行事等での教育目標・教育方針の説明・周知と各種たよりやHPの活用 ②昨年度の調査研究事業の成果を取り入れた授業改善の取組 ③連絡メールやHP更新など迅速な情報発信	① PTA 総会と学校行事での説明と、各種たよりとHPを充実させ、周知と理解に努めた。 ②-1 メンター制を取り入れた校内研修を年9回実施 ②-2 掲示物の工夫による授業等の取組の「みえる化」 ③ 気象警報発表時等に連絡メールを活用				
2学力向上・教科指導	①学習意欲の向上と学習習慣の確立 ②授業力向上の工夫・充実 ③家庭学習の定着	評価指標	評価指標の達成度	(評定) B	(所見) 基礎基本の定着に向けて様々な取組が行われていた。但し、授業中質問をする生徒の割合は少なく、言語活動を意図的に設定する授業が必要である。授業見学週間の回数を増やし、授業改善に取り組みやすい環境を設定した。	教員が工夫して授業を進めていると考える生徒は多数いるのに、授業中質問をしている生徒は少ない状況だが、のんびりとした地域性が垣間見えるとも言える。質問をするのではなく、受け身になりがちである。積極的な指名も繰り返すことで効果を生むかもしれない。更なる授業改善に努めてほしい。 また、TT指導による基礎的な内容の定着を工夫するなど個に応じた対応を今後も継続していく必要がある。	学力向上検討委員会で本校の課題を見つけ、解決への実行プランを作成し、職員全体の方向性を整える。年間を通じて取り組むテーマを設定し、教科単位や学級・学年単位で取り組む。 授業相互見学期間が積極的に活用される工夫をする。
		①-1教員が工夫して授業を進めていると考える生徒 ①-2授業中に質問をしている生徒 ② 授業力の向上に努めている教員 ③-1家庭学習を行っている生徒 ③-2家庭学習の時間増の工夫をしている教員	①-1 A ①-2 C ②2 A ③-1 B ③-2 B				
		活動計画	活動計画の実施状況				
		①-1学力向上検討委員会における実行プランの作成 ①-2TT指導の充実 ②-1教科サポートチームの活動を通して研修に取り組む。 ②-2朝読書の推進 ③-1宿題等の工夫及びその点検 ③-2放課後学習の実施	①-1学習の手引きを継続使用し、効率的な学習指導を実施 ①-2 TT指導による基礎的な内容の定着 ②-1メンター制等による教師力向上研修に年9回取り組んだ。 ②-21, 2年生で、朝読書を実施 ③-1宿題等の課題の工夫と点検、長期休業中の課題とそれに基づく確認テストを実施 ③-2 放課後の補充学習を計画的に実施				
3生徒指導・交通指導	① 基本的な生活習慣の定着 ②-1 生徒理解と相談体制の充実 ②-2 いじめ防止対策 ③ 交通指導の充実	評価指標	評価指標の達成度	(評定) A	(所見) 生徒がいじめを相談できる環境をつくり「いじめは許さない」という意識を高め、いじめの早期発見・早期対応に取り組む。	いじめ問題で苦しむ生徒がでないよう生徒をしっかりと見てほしい。また、保護者が見えていない所も多いはずなので、十分に連携を取ってほしい。 友人関係等、様々なことで悩んだ時に、身近に相談できる教員がいることは、非常に心強いはずだ。 校区が広いので、交通安全には一層配慮をする必要がある。地域の方の協力もあると聞き心強い。	生徒とともに活動する機会を教職員が大切にする。 本年度も一年生対象の交通安全教室をできるだけ早期に実施する。さらに安全教育担当を中心に集会や学活等を利用し、安全指導をする機会を積極的に設ける。
		① 遅刻せずに登校する生徒 ②-1教員が適切に指導しているとする保護者 ②-2いじめは絶対に許さないとする教員 ②-3いじめ問題を相談しやすいとする生徒 ③-1交通ルールを守っている生徒 ③-2交通ルールを指導する教員	① A ②-1 A ②-2 B ②-3 B ③-1 A ③-2 B				
		活動計画	活動計画の実施状況				
		①チャイム着席・交通立哨指導 ②-1相談体制の確立 ②-2いじめ問題等対策委員会を活かした校内体制の確立 ③計画的な安全教育への取り組み	①朝と休み時間の巡視を実施 ②-1 SCを中心とした相談活動と随時家庭訪問実施 適応指導教室と連携 ②-2学校いじめ防止基本方針に基づくいじめ問題等対策委員会において年5回アンケート調査を実施 ③年2回の交通安全教室と適宜登下校時の指導を実施				
4保健指導・給食指導・環境美化	①保健指導の徹底 ②給食指導の徹底 ③環境美化の推進	評価指標	評価指標の達成度	(評定) A	(所見) 基本的な生活習慣の定着ができています。「食育だより」を発行し、生徒だけでなく保護者にも啓発となっている。清掃活動に対する意識は生徒教員ともに高く大切にしていきたい活動である。	基本的な生活習慣を身につける「知識・理解・実践できる力」を育成する。栄養教諭や養護教諭との連携を密にし、自己の心身の健康について考える行事や授業を継続する。 清掃活動に対する高い意識が持ち続けられるようにする。また、教室や廊下の掲示物についても生徒が「自分たちの教室・自分たちの環境」と関わりたくなる手立てを続ける。	
		①-1健康に気をつけている生徒 ①-2健康に生活できるよう指導する教員 ②-1食生活に関心を持っている生徒 ②-2食生活を見直すよう指導する教員 ③-1清掃活動に積極的な生徒 ③-2清掃指導ができていると考える教員	①-1 B ①-2 A ②-1 B ②-2 A ③-1 A ③-2 A				
		活動計画	活動計画の実施状況				
		①保健指導計画の立案と学校保健委員会の開催 ②給食指導計画の立案と給食時間の指導 ③-1清掃担当者による清掃計画の立案と清掃指導 ③-2 NVC委員会による定期的な活動	①毎月の「保健だより」発行と学校保健委員会の開催 ②-1全教職員で給食時間の指導と「食育タイム」の充実 ②-2食育授業の実施と「食育だより」の発行 ③-1清掃担当者による清掃強化週間の立案と全教職員による清掃指導を実施 ③-2 NVC委員会による活動の実施				

南部中学校総括評価表 (No2) 平成30年度末

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
5図書館教育・キャリア教育・ 生徒会活動	①図書館の積極的な活用 ②進路指導の充実 ③生徒会活動の活性化	評価指標	評価指標の達成度	総合評定 (評定) B (所見) 朝のあいさつ運動をはじめ生徒会活動に積極的に取り組む生徒が次第に増えてきた。コミュニケーション能力向上のための取り組みを重視し、主体的な活動になるように工夫をした。	図書館だよりの発行を通して「お薦めの本の紹介」をしたり、図書室以外の学年廊下等に書架を設置したり活用のアピールがされている。また、PTAによる絵本の読み聞かせ活動も始まり、興味関心が向く工夫が見られる。今後も様々な手立てを考える必要がある。 生徒会による挨拶運動や地域の防災マップづくりへの参加など素晴らしい活動がひろがっている。
		①-1授業で図書室を活用する教員 ①-2年間10冊以上本を読む生徒 ②-1将来の職業に関心がある生徒 ②-2継続的な進路指導をしている教員 ③-1生徒会行事等に積極的な生徒 ③-2専門委員会が充実していると考える教員	①-1 C ①-2 C ②-1 B ②-2 A ③-1 B ③-2 1 B		
		①-1「図書室カレンダー」の発行とお薦めの本の紹介 ①-2学年書架を設置 ②3年間を見通した進路指導計画的立案と職場体験活動の立案・実施 ③生徒会活動の見直し 「あいさつ運動」の実施や地域防災活動に参加	①-1 図書室運営が滞ることなくできている。 ①-2 書架の本を興味深く見ている生徒もいる。 ②発達段階に応じた指導計画にそって実施。3年は春に職場体験活動を実施 ③-1 月1回専門員会で自主的な活動を実施 ③-2 生徒会活動の主力となる本部役員の育成		
6人権教育・道徳教育・特別支援教育	①人権教育の推進 ②道徳教育の推進 ③特別支援教育の推進	評価指標	評価指標の達成度	(評定) A (所見) 自尊感情や自己肯定感をいっそう高められるよう、教師が生徒に自信を持たせたり自分の良さに気づいたりする活動を取り入れる工夫をする。	自尊感情や自己肯定感を高められるよう、生徒に自信を持たせたり、自分のよさに気づいたりする活動を様々な場で工夫することである。 校区内小学校との連携を密にし、さらに特別支援教育を充実させてほしい。
		①-1学校に来るのが楽しい生徒 ①-2温かい言葉がけをしている教員 ②私には良いところがあると考える生徒 ③-1友だちの良さを見つけている生徒 ③-2支援の必要な生徒を把握している教員	①-1 B ①-2 A ② B ③-1 A ③-2 A		
		活動計画 ①人権教育主事を中心に人権教育の立案 ②道徳教育推進教師を中心に活動計画を立案 ③入学前を含めて年間4～5回の教育相談を実施して、特別な支援を必要とする生徒のニーズに応じた支援に努める。	活動計画の実施状況 ①人権教育主事を中心に活動計画に基づいて活動 ②道徳教育推進教師を中心に学年の活動計画に基づいて研修を実施 ③校区内小学校支援学級との連携を強化し、参観授業や個別のニーズや支援について面談を実施した。		

「評定」の基準 A:十分達成できた B:おおむね達成できた C:達成できなかった